



2006年6月の第五次医療法改正に伴って、二次医療圏内にも病床の規制が敷かれたため新たな病院や有床診療所は開設ができなくなりました。しかし、管野医師の力強い地域医療への情熱により特別に開設が認可されました。今では県南地域にはなくてはならない産婦人科クリニックとして、女性や妊産婦の皆様にご愛顧いただいております。



シンメトリーでアカデミックな外観は、明るいエンジ色とベージュ色でメリハリをつけました。



エントランスの壁を鮮やかな2色の壁紙で貼り分けてバランスを考えつつ、反対色を貼り分けて、彩度はやや抑え気味に高級感を醸し出しています。



受付まわりのパブリックなスペースは、インテリアにダークブラウン色を基調とし、落ち着いた仕上げにこだわりました



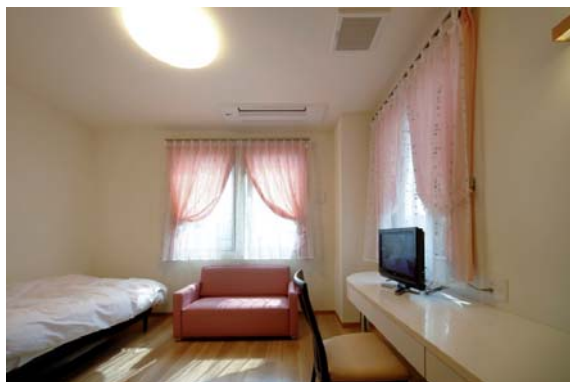
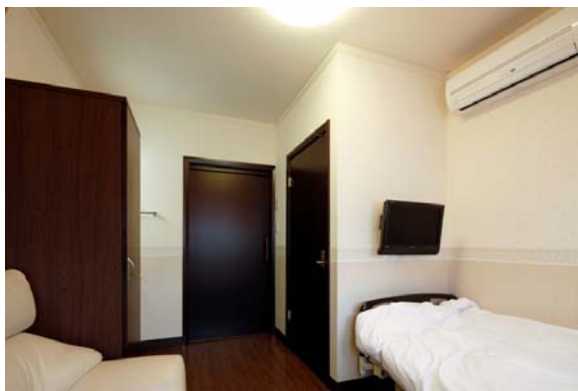
ローマンシェードのカーテンと、花柄の壁紙に包まれた、清潔感を最重要視した新生児室は、可愛いらしいベビーの寝顔に、訪れた人は穏やかで心地よい印象をもたれます。



マタニティビクスルーム 妊婦さんが少しでも楽に出産できるよう、産前産後の体づくりのためのヨガなど、他目的に使用できる大空間が妊産婦の方々にとっても喜ばれています。



レース調スクリーンがエレガントな雰囲気醸し出す、
ダークブラウンを基調にした落ち着いたディールーム。



ホテル感覚の入院施設は、ファブリックのやさらかな
風合いが加わったプチホテルを思わせる病室。繊細な
ギャザーが品の良い華やかさを演出致します。